

衛生指導課 NEWS

オーエスキー病の発生及び 抗体検査結果について

1 オーエスキー病の発生状況

平成16年は、栃木県、埼玉県、千葉県及び宮崎県の4県で5戸13頭の発生がありました。

オーエスキー病の発生戸数及び頭数は昭和63年をピーク(59戸9,491頭)とし、大きく減少したものの、発生県数には大きな変化はなく、一部では常在化の傾向にあります。

2 オーエスキー病野外ウイルス抗体調査結果について

オーエスキー病野外ウイルスの浸潤状況調査については、都道府県が家畜伝染病予防事業及び家畜生産農場清浄化支援対策事業等により抗体検査を行い、農林水産省衛生管理課がとりまとめた平成16年度調査結果によると、野外ウイルス抗体陽性豚が確認されたのは、平成15年度同様、東北、関東及び九州の3ブロックに限られています。

また、と畜場抗体陽性率の推移から九州及び東北ブロックは陽性率が低い値で推移しているものの、関東ブロックは陽性率の変動が激しく抗体陽性率が高くなる傾向にあります。

オーエスキー病野外ウイルス抗体陽性豚は、体内に野外ウイルスを一生保有しています。

また、ワクチンは、オーエスキー病の症状を出さず、ウイルスの排出を抑える効果はありますが、野外ウイルスが体内に侵入することを防ぐ効果は十分ではありません。従って、汚染地域では、ワクチン接種によりウイルスの動きを抑え込みながら、飼養豚を順次野外ウイルスに感染していない豚に置き換えていく方法での清浄化が推進されています。

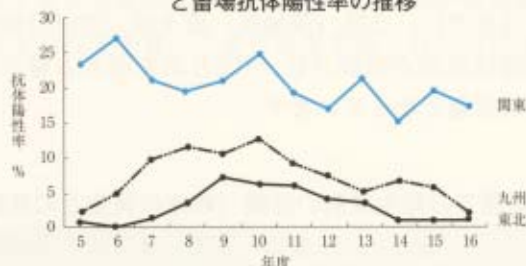
そのためには、農場の全頭の豚にワクチン接種と、抗体陰性豚の導入を徹底することが必要です。

(1) と畜場検査

(単位:頭、%)

区分	平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率	検査頭数	陽性率
北海道	2,457	0.0	2,182	0.0	2,053	0.0
東北	8,939	1.0	8,958	1.0	8,029	1.3
関東	8,793	15.0	6,453	19.5	7,958	17.3
北陸	2,230	0.0	2,879	0.0	2,818	0.0
東海	547	0.0	396	0.0	468	0.0
近畿	313	0.0	310	0.0	100	0.0
中国四国	2,942	0.0	3,078	0.0	3,966	0.0
九州	11,342	6.5	11,382	5.6	14,332	2.4
沖縄	0	—	58	0.0	0	0.0
合計	37,563	5.7	35,696	5.6	39,724	4.5

と畜場抗体陽性率の推移



(2) 農場検査

(単位:頭、戸、%)

区分	平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	検査数	陽性率	検査数	陽性率	検査数	陽性率	
北海道	頭数	3,272	0.0	4,565	0.0	2,533	0.0
	戸数	238	0.0	313	0.0	199	0.0
東北	頭数	34,389	0.3	30,035	0.3	33,051	0.2
	戸数	1,220	1.7	911	1.9	1,214	1.3
関東	頭数	29,193	8.8	31,764	9.0	27,857	7.1
	戸数	1,316	22.3	1,391	23.7	1,298	20.9
北陸	頭数	8,687	0.0	8,137	0.0	7,787	0.0
	戸数	263	0.0	292	0.0	285	0.0
東海	頭数	19,277	0.0	19,409	0.0	17,459	0.0
	戸数	1,240	0.0	1,107	0.0	1,125	0.0
近畿	頭数	3,660	0.0	3,236	0.0	3,312	0.0
	戸数	279	0.0	281	0.0	272	0.0
中国四国	頭数	22,760	0.0	19,823	0.0	16,173	0.0
	戸数	662	0.0	585	0.0	526	0.0
九州	頭数	27,913	4.2	23,797	1.3	31,117	1.9
	戸数	2,199	4.5	1,922	2.3	2,494	4.9
沖縄	頭数	499	0.0	908	0.0	525	0.0
	戸数	33	0.0	38	0.0	88	0.0
合計	頭数	149,650	2.6	141,674	2.6	139,814	1.9
	戸数	7,450	5.5	6,840	5.7	7,501	5.5

新潟県における抗体検査の推移

オーエスキー病は、昭和56年山形県での初発以降1都20県で発生しています。

新潟県では、発生はもとより抗体陽性豚の摘発もなく清浄県を維持しています。

オーエスキー病侵入防止のため、今後とも定期的な抗体検査及び県外導入豚の隔離飼養による清浄確認検査をする必要があります。

また、平成16年度は抗体陽性豚等異常豚の摘発はありません。

当県における抗体検査の推移

年度	13年度	14年度	15年度
検査頭数	8,297	8,838	6,898

*当県では抗体陽性豚の摘発はない。

冬に向け防疫対策を徹底しましょう 茨城県で高病原性鳥インフルエンザの抗体陽性農場を多数確認

新潟県農林水産部畜産課

○分離ウイルスは弱毒タイプ

平成17年6月26日、茨城県内の採卵養鶏場で前年とは異なる H5N2 亜型の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。

今回の分離ウイルスは病原性が弱いため、ウイルスが侵入しても気付かない場合があり、平成17年9月8日までに、2県（茨城県、埼玉県）で計31例の抗体陽性農場が確認され、150万羽を超える鶏が殺処分の対象となっています。

○密閉型鶏舎での処分緩和

防疫対応の変化として、密閉型鶏舎（ウインドレス鶏舎）については、厳格な飼養管理が行われていれば、抗体陽性でもウイルス分離陰性の場合は、飼養鶏は淘汰せず監視強化により対応することとされました。

○人為的な感染の可能性

今回の感染経路については、感染経路究明チームが、ワクチンの使用など何らかの人為的な感染も否定できないとの見解を示しました。

茨城県での発生事例の特徴（昨年との比較）

区 分	茨城県の発生 (H17)	昨年の発生 (H16)
分離ウイルス	H5N2	H5N1
症状	産卵率の低下 特徴的な症状はない	突然の死亡（急激な死亡率の増加） 神経症状（うずくまり等）
周辺農場防疫対策	抗体陽性を確認 →殺処分の対象	抗体陽性農場は認められていない。
処分の方法	一般焼却処理施設での焼却または発酵消毒	埋却
同じタイプの海外での発生	H16 韓国、台湾、米国 中南米定着	H16 韓国、中国、東南アジア

○新潟県では防疫対策を強化→これまでに本病を疑う事例なし

1 死亡数調査

農場における週毎の死亡数調査を1か月週り実施しました（6/27～28）。

2 緊急の農場巡回調査

県内111農場の調査を実施し、発生を疑う農場がないことを確認しました（6/28～7/5）。

3 死亡鶏等の報告徴求の再開

平成17年7月第1週から、千羽以上を飼養する養鶏場（111農場）に対して、異常の有無について、週毎の報告を求め、異常があれば検査を実施しています。

4 防疫対策会議の開催

第1回（7/5）：報告徴求の再開、モニタリング強化等、今回の弱毒タイプのウイルスに対応した新たな

対策についての認識の共有化と防疫対策の徹底を図りました。

第2回（9/13）：発生が一部地域に限局して多数確認されていること、また、ウインドレス鶏舎での対応や一般廃棄物処理場での焼却処分など、新たな防疫対策が講じられていることから、情勢や対応の変化について周知を図りました。

5 毎月のモニタリングの強化

平成17年7月から、毎月のモニタリング農場を6農場から10農場に拡大しました。

6 県内の一斉サーベイランス

平成17年7月19日から8月2日まで採卵鶏農場（千羽以上飼養：63農場）の3割（20農場）を無作為抽出して抗体検査を実施しました。

○冬前に防疫対策の徹底を!!

冬は鳥インフルエンザウイルスの流行が心配される季節です。鶏を飼っている方は野鳥の侵入防止、外来者の立ち入り制限、鶏舎内外の消毒励行などの

防疫対策を徹底してください。

飼養鶏に異常を認めたら速やかに家畜保健衛生所に連絡してください。